

～憧れの漁師生活は、充実と厳しさの両面あり！～

渡邊 翔太さん（西条市） 1992 年生まれ

【就業のきっかけ】

子供の時から釣りが好きで海に関わる仕事がしたいと思っていました。そんな時に、一人の漁業者と知り合いになり、その縁で周りの漁業者とも話をするようになる中で、自分がやりたいことが見えてきました。数年間は色々な漁業を体験してみましたが、自分一人で操業できること、頑張れば毎日収入が得られること等の理由で、小型機船底びき網漁業（小型底びき網）を営むようになりました。



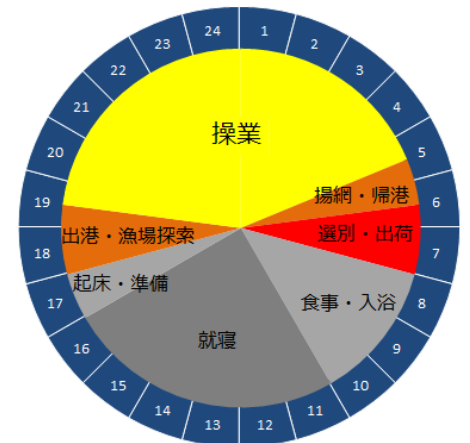
【経営規模】

小型底びき網は、漁船 1 隻で海底に沈めた網を曳き、魚介類を袋網に追い込んで獲る漁業です。主に「えびこぎ網」と「戦車こぎ網」という 2 種類の漁法で操業しています。「えびこぎ網」は、エビ、タイ、ハモ等を対象にし、ビームと呼ばれる棒を網口に取り付けて操業します。「戦車こぎ網」は、「マンガ」とも言い、冬季、カレイ、クルマエビ、カニ等を対象とし、砂地をかくための爪がついた桁と呼ばれる鋼製の枠を網口に取り付けて操業します。



【ライフスタイル(一日、一週間の過ごし方)】

月に 20 日間程度を目標に海に出ています。漁法によって、過ごし方は異なりますが、小型底びき網は、夜間に操業して、昼間に就寝するといった昼夜が逆転した生活となります。時化の中での操業で体力的にきつい時もありますが、どんな魚であっても、網に沢山入っているのを見た時の喜びは、お金に関係なく格別なものがあります。平日は漁業が中心の生活ですが、週一回の休漁日である土曜日には、買い物や外食に行ったりして、友達と楽しんでいます。船を購入して漁業を始めた以上、やり続ける覚悟を持ってやっていますが、仕事が好きなので、苦になりません。



一日のライフスタイル

【これからの夢・目標】

漁業者は広い海の上で一人一人が操業していますが、効率良く漁獲するには、情報交換が大切です。今後も仲間を大事にしていきたいと思っています。一方、若者も高齢者も海の上では同じ土俵で勝負しており、努力や経験が成果に現れることにやりがいを感じます。今でも経験豊富な高齢の漁業者にはなかなか勝てませんが、始めた頃と比べたら、一日、一年の作業の流れがつかめてきました。これから経験を積んで、さらに仕事ができるようになりたいです。

【漁業に対する思いと目指す方へのメッセージ】

もし漁業に興味を持ったら、港に出てきて、実際の漁業者と話をすれば、漁業者になることの良い面ばかりではなく悪い面も含めて、検討する材料を与えてくれると思います。私も就業する時には先輩漁業者に漁労技術、船や計器の入手など親身になって助けてもらい、すごく感謝しています。私の住む地区でも漁業者の高齢化が進んでいますが、近年、若い新規漁業者が少しずつ加入するようになりました。今後は、新たな後輩達を積極的にアドバイスしながら、共に地区の漁業を支えていけたらと考えています。